

公的医療保険の効率性

—情報の非対称性が存在する市場における政府介入の是非—

山本信一* 宮下洋†

2007年9月12日投稿

2008年1月18日受理

概要

日本では、高齢化が進む中で公的医療保険を縮小し市場原理を広く導入していくことにより医療費の効率化を図るべきであるという意見があるが、発展途上国では、市場原理主義の徹底により市場の失敗を招いた事例もある。本研究では、公的医療保険を縮小し市場原理を活用することにより総医療費を削減できるかについて、世界23カ国4年・11カ国15年について、パネルデータ分析を行なった。結果は、①総医療費(対GDP)比率は、国民皆保険制度がないほど高くなり、公的医療保険支出比率(対総医療費)が小さいほど高くなる②総医療費(対GDP)比率は、国民皆保険制度の有無・公的医療保険支出比率(対総医療費)・喫煙率・人口1000人当り医師数・1人当りGDP・乳幼児死亡率・平均寿命・65才以上人口比率等の説明変数で大半を説明できるであった。これは、情報の非対称性がある医療保険分野では、政府が直接に市場を支配した方が、医療費の効率化につながっているということである。この結論に至る過程では、分配の平等については考慮しておらず、それを考慮すれば一層、政府の介入が正当化される。

キーワード：公的医療保険、情報の非対称性、政府介入の是非、パネルデータ分析

1 はじめに

医療保険は、政府が運営するのと民間に委ねるとどちらが効率的であろうか。

本稿では、総医療費の対GDP比率の要因分析を通じて、この疑問を解明していきたい。それに先立ち、先行研究を概観する。

医療保険については、保険者が加入者の健康状態を正確に把握できず、情報の非対称性が存在する特殊な市場特性があるため、政府の介入により、市場の失敗を是正すべきかについて、理論分野・

* 立命館大学経済学部 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 email: s.yamato@cc.ritsumeai.ac.jp
† 京都産業大学経営学部 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 email: miyasita@cc.kyoto-su.ac.jp